



YES 通信



〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2019年8月号

暗記を得意にする方法ってありますか？

この仕事を始めて14年になりますが、塾の先生になる九大生の中には暗記が得意な人が多く、その暗記法を聞くたびに暗記が得意になる人は私の勉強法とは全く違う方法で努力していることに気が付きました。暗記が苦手な生徒程私に似たような暗記法をやっているのです。

早い段階で暗記の仕方や考え方をマスターすると勉強に関してはとても有利になります。勉強だけでなく資格試験や公務員や大企業の昇進試験にも有利になることは紛れもない事実です。

そんなに重要な暗記法ですがそのやり方に関しては、「何度も紙に書け」「繰り返しが大事！」って言われるくらいで具体的な方法はあまり伝えられていないのが実際のところなんです。私たちは覚えられないと言いますが、実は一回見たものは脳のどこかに記憶されているそうなんです。正しくは覚えられないのではなく、思い出せないのが正解らしいです。それでは思い出せるようにするにはどうすればいいの？それは暗記する際に刺激を強くすることです。思い出の中で印象に残っている出来事はどうな出来事でしょうか？おそらくとても悲しかったことや嬉しかったこと、怖かったこと、痛かったこと等刺激の強かったことなのではないでしょうか？それと何度も何度も繰り返ししたこと。何度も繰り返し返

すところちょっとの刺激でも刺激が強まるので、思い出すことが出来るようになるのです。

なので、暗記する際には目で見るだけでなく耳でも聞く、そして書く、声に出すといういろいろな刺激を同時に受けるようにした方が思い出しやすくなるのです。しかも反復すればするほど刺激が高まります。

だから繰り返し書きなさいとか声に出した方が良いやというアドバイスになってしまうのです。しかし、どの刺激を強く感じるかは個人差があり、書く方が良いという人もいれば声に出した方が良く覚えられるという人がいるので、どのような刺激が自分にとっていいのかは、いろいろなパターンを試して自分なりの方法を見出していく必要があります。

それから大事なのが「なんだったけ？」と自分で自分をテストして思い出すということです。暗記が苦手な人ほど覚えようとは思いますが思い出すことはしません。暗記とはある意味思い出す訓練なのです。テキストには書き込まずに、何度もテストをするとか、書き込んででも赤シートで再度テストが出来るようにすることが重要になります。

私が九大生を見ていて一番大切なのが一回で覚えようとしないうことです。熱心な人ほど一回で覚えようと思いますが、出来る人ほど3回目くらいで覚えようとしています。だから反復することで定着

していくのです。覚えようと努力するよりも繰り返し努力が大切なのだと学びました。みなさんも暗記の際には、一気に覚えようと思わず、気楽な気持ちで刺激を強くして繰り返しみて下さい。その際に「なんだっけ？」を意識してください。そうするといつの間にか覚えることが出来ているはずなんです。

漢字を例に具体的には、先ず3回目くらいで暗記できるくらいの数(漢検の問題集で8級は6問、7級は10問でひとまとまりになっています。)をノートに書きながら声を出して暗記する。1回目のテストを行う。丸付けをして間違えた問題に印をつける。間違えた問題を再度ノートに書いて暗記する。2回目のテストを行う。これを満点になるまで繰り返す。(なかなか満点にならないようなら10問を半分の5問にして同じようにやる。)満点になったら次の10問を同じ要領で暗記して、50問暗記したら50問全部をテストしてみる。間違えた問題を再度暗記して50問暗記するまで繰り返す。これをテンポよくやるのが重要で2回目3回目4回目と満点を目指します。慣れてきたらその数を増やしていきます。

20問ずつ暗記して、100問になったら100問のテストを行うようにするなど量を増やしていくのはいいです。最初は少ししか処理しきれなくても慣れれば必ず大量に処理できるようになっていきますので定期的に暗記に取り組み継続していくことが重要です。大量の暗記をする訓練には漢字検定はとてもいい機会だと思います。ぜひ挑戦してください。

やる気相談室

検定

検定が注目を浴びてきています！

大学入試や就職活動が多様化する中で検定に注目が集まっています。

大学入試に英検やTOEIC等の外部検定を活用しようという動きが出ています。この件に関しては新聞やニュースでも見られた方がいらっしゃる

かもしれませんが英語以外にも注目されてきているのです。

日本の資格・検定というサイトに就活で有利な検定という特集があり、1位簿記、2位TOEIC、3位宅建となっています。

この辺りではなんとなくイメージできるのですが、なんと6位英検、7位漢検となっています。7位の漢字検定にはちょっとびっくりでした。

この件に関して私もいろいろ調べてみたのですが、漢字検定のサイトには上場企

業のうち468社が漢検を新卒採用や社員教育等において活用していると書いてありました。調査した上場企業2334社中468社実に20.1%企業もあるのです。

その内、453社が漢検を新卒採用の評価指標として活用しています。実際のようないかなる場面でも活用されているのかというところ、書類選考の場面で「言語力を測る指標として活用している」97社、「目標に向かって学ぶ意欲」を測る指標として活用している「282社」となっています。また、採用面接の場面では「言語力を測る指標として活用している」74社、「目標に向かって学ぶ意欲」を測る指標として活用している「371社」となっています。

先月のYES通信でも紹介した非認知能力としての評価が高いことが注目すべき点だと思えます。

さらに社員教育で漢検を活用している企業が69社もあるのです。漢字検定で2級や1級を取ると一時金ですが手当てが支給されているのだそうです。上場企業全体の

3%ではありませんが、漢字検定がそんなところで評価されていることに驚きました。大企業は投資する視点が我々のような個人企業とは違います。

速聴読の生徒対象に21日に漢字検定を実施する予定ですが、そのようなことを踏まえ前向きに取り組んで欲しいものです。漢字検定以外でも大学入試では、英検や数検の結果で科目が免除になったり、高い点数に換算してもらえたりする大学があるので、そのような検定をしっかりと取っておくことはとても有利になります。

昨年慶應大学にAO入試で合格した生徒はGTECスコアが715点と非常に高かったのも合格した大きな要因だと考えています。しっかりと目標に向けて取り組むことが良い結果につながっていきます。

将来的には数検、英検、珠算検定の2級以上を習得した生徒は、高校生でも塾の講師が出来るような制度を作り上げたいと考えています。そして、早い段階で2級を取得する生徒を育成していきたいです。

書籍紹介

美しい星

三島由紀夫著

私が日本一の読書家として尊敬している執行草舟氏が憧れに生きる人物を描いた素晴らしい本だと絶賛なさっていた本です。私にとって三島由紀夫の本はこの本が「永すぎた春」「金閣寺」に続く3冊目の本です。

この本は三島由紀夫のイメージとはちょっと違うSFタッチの本で2年前に映画化もされています。私は映画の存在さえ知らなかったのですが、執行氏のオススメならば是非読んでみようかと一大決心しました。三島由紀夫の本は私のように小説を読むのが苦手な者にはかなりハードルが高く、金閣寺でかなり苦戦したので読み始めるまでにかかなり躊躇しました。読んでみると案の定、三島由紀夫の語彙力と私と語彙力の隔たりが大きく、かなり時間がかかってしまいました。昨年から速聴読で鍛えていたので、かなり読むのが早くなった実感を持っていたのですが、わからない言葉が多いせいか中々前に進みませんでした。

三島由紀夫が言わんとすることの10分の1も理解できていないとは思いますが、この本は三島由紀夫が思っている人間観を宇宙人だと思い込んでいる日本人をとらえて議論し合うという構成で、三島由紀夫の思想がとても強く反映している本だと感じました。今読んででも色褪せない所は、いかに三島由紀夫が深い洞察力を持っていたのかという証だと思いました。この本を読んでみて改めてDVDも見てみたいと思いました。

